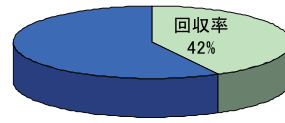
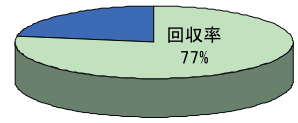


※ 結果の詳細はFD委員会ホームページに掲載しています。http://www.comp.tmu.ac.jp/FD/

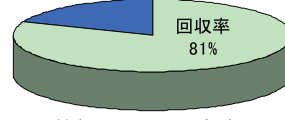
2009年度後期の全学共通科目の授業評価アンケート結果をお知らせします。アンケートの対象者数と回収率は右のグラフのとおりです。今回も多くの学生の皆さんにご回答いただきました。



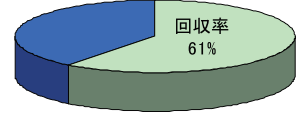
都市教養プログラム
(履修登録12852名)



実践英語II
(履修登録1630名)



情報リテラシー実践IIAB
(履修登録517名)

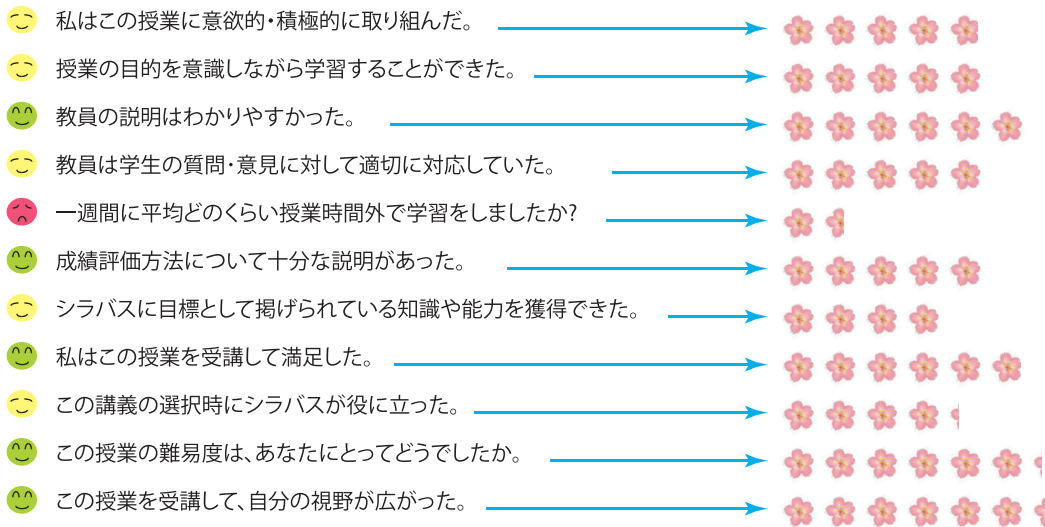
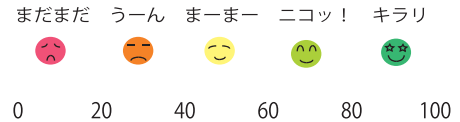


理工系共通基礎科目
(履修登録4275名)

ご協力ありがとうございました！

※ 調査結果は回答者個人が特定できないような形に処理した上で、FD委員会の責任で集計・周知されるとともに、授業担当者にフィードバックされます。
※ アンケート結果内のグラフは「強くそう思う」または「そう思う」の回答割合を示しています。ただし「授業時間外学習」については「1時間以上」の回答割合を、「難易度」と理工系共通基礎科目の「クラスサイズ」の設定については「ちょうどよい」の回答割合を示しています。なお、質問事項の一部は簡略化しているものがあります。

都市教養プログラム



こんな意見がありました

- レジュメやスライドがとてもわかりやすかった。
- たくさん本が読めてよかった。
- 毎回の小テストに質問を書くと、次の授業で答えてくれた。
- 成績評価の方法を明確にして欲しい。

授業担当者から

- レポートやアンケートに対する即時的フィードバックを実践した。
- Web ページを利用し、学生に対しこまめに情報を提供した。
- 成績評価について分かりやすい説明をするように努めた。
- 受講生が多く、学生とのコミュニケーションが難しい。

担当部会からのコメント：シラバス関連項目の評価に上昇が見られたものの、まだまだ低い評価ですので、今後も改善に努めていきたいと思っております。

FD (ファカルティ・ディベロップメント Faculty Development) とは

起源は、米国にあり、「大学の自己評価機能の開発、個人と組織の教育機能の開発、教員人事機能の適正化の実現、管理運営機能の開発」を含んだ大きな概念とされています。日本では「教員が授業内容・方法を改善し、向上させるための組織的な取組みの総称」と定義されています。

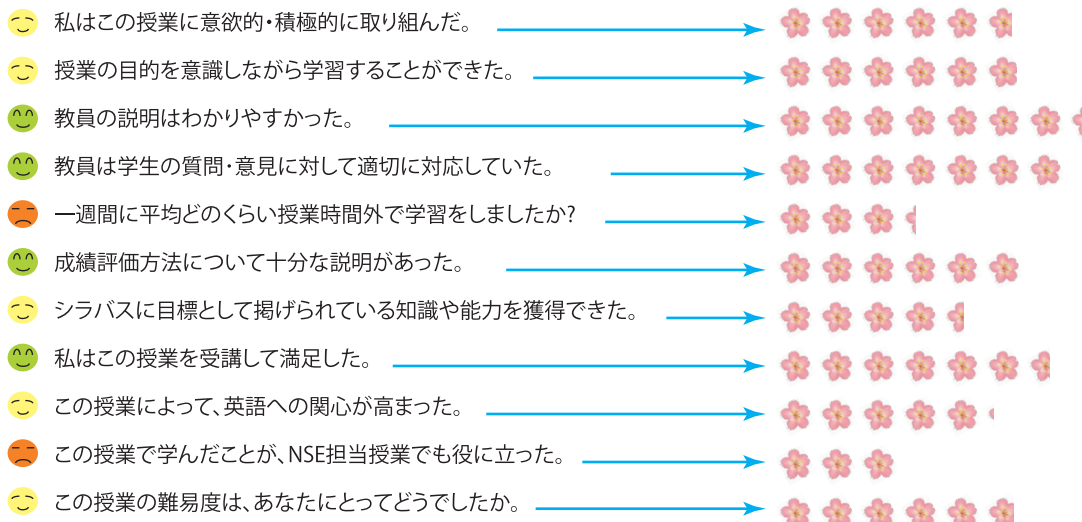
FD レポートの愛称「CROSSROAD」の由来

CROSSROAD (クロスロード) とは、首都大学東京が4つの大学を再編・統合して設置された大学であるため、その「文化の交差点」を意味して命名しました。4つの大学の知的文化が交差すること、そこで出会って新たな教育が生み出されていくこと、それがこの名前のコンセプトです。



実践英語 IIb

まだまだ うーん まーまー ニッコッ! キラリ
0 20 40 60 80 100



こんな意見がありました

- CALL 教材がよかった。
- 緊張感ある授業で集中できた。
- 学生のレベルに応じて教え方を工夫してくれてよかった。
- リスニングの回数を増やして欲しい。

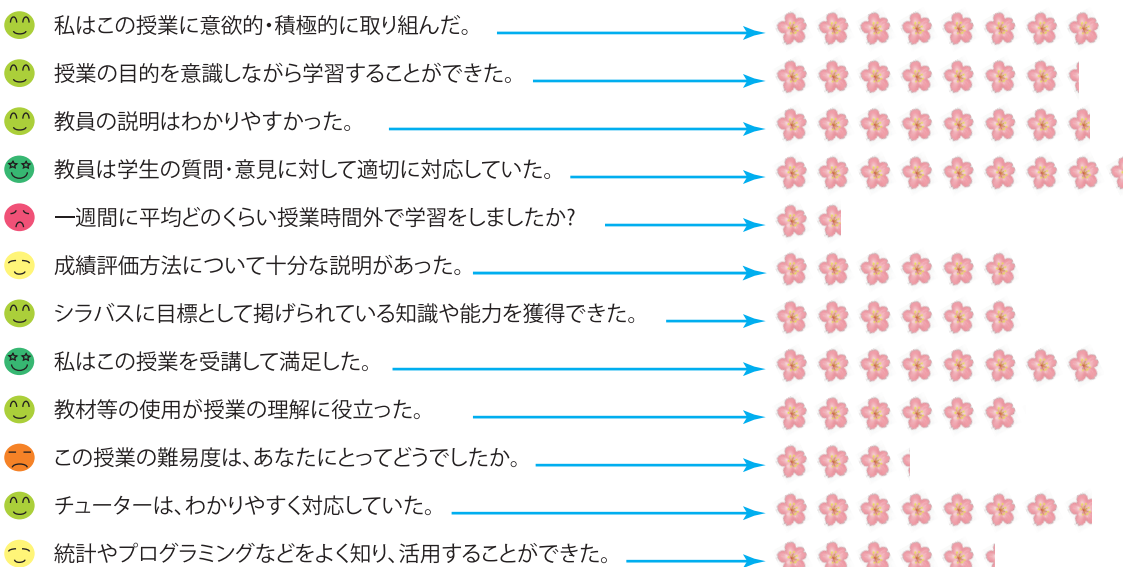
授業担当者から

- 学生が「調べる楽しさ」を学べるよう工夫した。
- 視覚教材を使用し、学生の興味を喚起した。
- 外国人ゲストを授業に数回招き、交流を行った。
- いかに予習してもらえるかに苦労した。

担当部会からのコメント：実践英語 IIa.b は Reading, Media, Comprehensive の 3 種類のクラスがあり、どのクラスにおいても学生諸君の英語力向上に役立つ授業をすることを目指しています。学生諸君の積極的な授業参加を期待します。

情報リテラシー実践 IIAB

まだまだ うーん まーまー ニッコッ! キラリ
0 20 40 60 80 100



こんな意見がありました

- 説明が丁寧でとてもわかりやすかった。
- 自分の成績が随時わかるのでよかった。
- Blackboard のシステムを有効に利用できた。
- 授業の進め方や速さを工夫して欲しかった。

授業担当者から

- 毎回の授業で理解度アンケートを実施した。
- さまざまなメディアを使用して、理解を助けるように工夫した。
- 断片的な知識を定着させるため、プログラムを自作させた。
- 文理混合クラスのため、進度の調整が難しい。

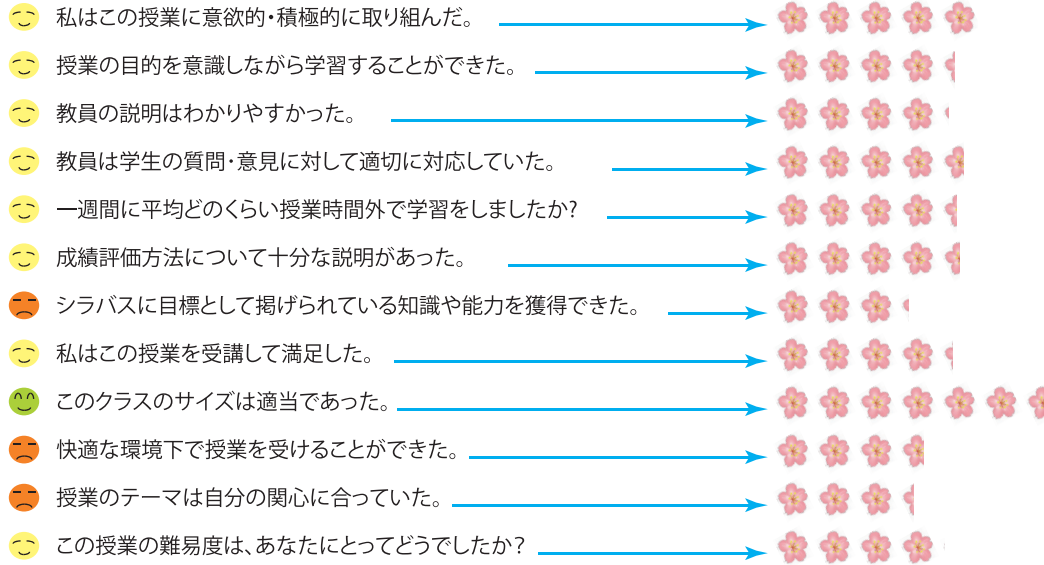
担当部会からのコメント：皆さんが情報リテラシー実践 II を通して学んだ ICT に関する知識やスキルは、まだ序論に過ぎません。さらに関係する授業を受講したり、専門課程での研究という実践を通して深化・発展させてください。

理工系共通基礎科目

まだまだ うーん まーまー ニッコッ! キラリ



0 20 40 60 80 100



こんな意見がありました

- 宿題の解答例が配られ、自分の誤りを把握することができた。
- 知識として持っていたものを数学的に証明してくれ、楽しく受講できた。
- Web 上での演習問題・解説が充実していた。
- 教科書の使い方を工夫して欲しい。

授業担当者から

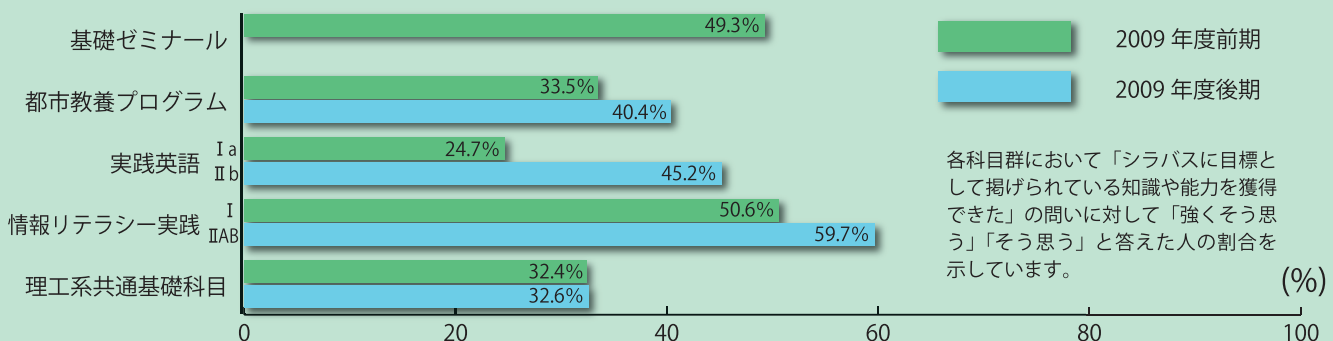
- 例題や演習問題の解説を多くするように心がけた。
- 授業内での個別対応により、理解増進を図った。
- 小テストや理解度チェックの演習プリントをこまめに行った。
- 学生の習熟度に沿った授業準備や説明を心がけた。

担当部会からのコメント：SEの結果の数値は見事なまでに21年度前期と同様です。ただ、数値としては同じでも、この数年増加傾向だった「授業時間外学習」がまだ1時間未満の人が過半数のままなのが残念です。

どうして聞くの？（質問項目解説シリーズ No.2） 今回は「シラバスと目標」

- 各授業には目的・目標があり、それがシラバスに明記されています。つまり、半期15回の授業が終了した時点で学生の皆さんに身につけて欲しい能力やスキルなどの成果です。先生方もこのような成果を学生の皆さんに修得して欲しいと授業をされています。このような学習成果の示し方は、シラバスでは学生の皆さんから見て「・・・することができる」というような書き方になっているはずですが、この目標が達成できたかどうかは授業改善のために重要な指針となります。
- 学生の皆さんには毎回の授業でこの目的・目標を確認しながら授業を受講していただきたいのです。学期末の最後の授業評価でこの質問に対して「今シラバスが手元にないので何が達成できたか判断できない」というようなことがないように、各授業の目的・目標に対して自覚的に授業を受講していただきたいのです。
- さて、昨年度のデータから見れば、授業の成果が達成できたかどうか、あまりいい評価ではないように思われます。（ちなみに、先生方は学生の皆さんより以上に「成果を達成したと思う」と回答されています。このズレは一体どこから生ずるのでしょうか。）

シラバスに目標として掲げられている知識や能力を獲得できた（2009年度前期・後期 SE）



首都大では授業評価アンケート結果を基に様々な教育改善を行っています

- 本学では平成17年の開学以来、FD委員会を中心に、授業評価アンケートの結果等を基に様々な教育改善に取り組んできました。その主な例をご紹介します。
- 基礎ゼミナール担当教員および次年度担当教員の情報交換の場として「基礎ゼミ懇談会」を開催したりするなど、基礎ゼミナールの一層の充実に向けた取組みを行いました。
- 授業担当者によって成績の付け方が極端にアンバランスとならないよう、基礎ゼミナールや都市教養プログラムなど授業科目の種類ごとに成績評価について話し合いを行いました。
- 実践英語では、授業で使う英語フレーズ集を見直して改訂したほか、新教材を開発して、22年度から本格的に使用することにしました。
- 都市教養プログラムにおいて、履修選択のための授業説明の機会を増やし、シラバスだけではわからない授業の雰囲気等を伝える目的で、初回の授業を45分ずつの2回に分けてガイダンス等を行う試行を始めました。
- よりよい環境で授業が実施できるよう、一部の教室の黒板、プロジェクター、マイク等の改善を行ってきました。
- 情報リテラシー実践Ⅱに、画像と音を扱うクラスを新たに設けました。

FDって何？

皆さんは、「FD」という言葉を聞いたことがありますか？

FDとは「ファカルティ・ディベロップメント (Faculty Development)」の略語で「教員が授業内容・方法を改善し、向上させるための組織的な取組みの総称」と定義されています。

首都大学東京では、各学部・系、研究科から選出されたFD委員を中心に、全学FD委員会を組織し教育活動のさらなる改善のために、以下のようなさまざまな取組みを行っています。

☆毎月定期的に委員会を開催し、FDに関する各学部・系、研究科の活動状況の情報交換・意見交換を行っています。

☆前期と後期の2回、全学共通科目に関する授業評価アンケートを実施しています。

☆授業評価アンケートの結果を学生の皆さんにフィードバックするために、『別冊クロスロード』を年2回発行しています。

☆年間テーマに基づきセミナーを開催し、学内外の講師による講演会等を実施しています。

☆一年間のFD活動をまとめたFDレポート『クロスロード』を定期的に発行しています。

☆全学のFD委員会だけでなく、各学部・系、研究科にもFD委員会があり、それぞれの専門分野の特性に応じて、専門科目授業評価アンケートや学生との懇談会など、教育改善に向けたFD活動に取り組んでいます。

学生の皆さんからの、FD活動や教育改善に関する「声」を歓迎します。事務局までお寄せ下さい。

内線：1036 Email：fdwww@tmu.ac.jp

編集を終えて

『別冊クロスロード』の第2号をお届けします。2009年度後期の学生による授業評価アンケート(SE)結果の速報が中心ですが、特集として授業の「成果」に関する解説も掲載しました。SEの結果は数字も重要ですが、「担当部会からのコメント」もぜひ注目してください。前期SE結果へのコメントとどこが同じで、どこが違っているのか、あるいはニュアンスがどう変わっているのかわかるでしょうか？授業は学生と教員の協同で成り立ちます。授業を担当している教員集団が注目し、重視していることと、授業を受けている学生の皆さんの感覚がずれていないでしょうか。「成果」に対する学生と教員の感覚の違いもなぜなのか考えてみてください。

昨年度に引き続き、FD委員会では今年度もFD活動に学生の意見、意欲を反映するための工夫を継続します。学生の皆さんの意見、批判、コメント、要望などをどうぞFD委員会にお寄せください。

平成21年度FD委員会広報部長 田代 伸一 (都市教養学部理工学系機械工学コース教授)